

ひょうご連続講座 3 日目 7 月 26 日 アンケート まとめ

1, 講義と演習「金銭指導 買い物は楽しい！」高橋知恵子先生のご感想やご意見をお書き下さい

【保護者 4 歳】

まだ息子も小さいのでお小遣いもあげておらず、金銭指導と聞くとイメージがしにくかったのですが、金銭には社会性や人間関係が含まれる、と言う最初のお話に考えさせられました。

実践形式で講座をしてくださったので、とても分かりやすかったです。タイルとマッチングさせながら、硬貨の種類や価値、金額を丁寧に教えていく、とても根気のいることですが、社会生活をしていく上で金銭のやり取りは避けて通れないので、しっかり教えていきたいと思いました。

お金が足りない時のテープを使っの指導も、とても分かりやすかったです。

他の教材でも感じるのですが、親の私たちにとっても分かりやすく、指導しやすい教材であることもとてもありがたいです。

料理のお話しも印象に残りました。金銭指導を通じて数字、計算がわかると料理にもつながる、療育の宝庫である料理ができるようになると、将来にもつながっていくのだと改めて感じました。

将来を心豊かに過ごすために、生きるために必要なことを学ばせていくのだという気持ちを胸に療育に取り組みたいと思います。

河島先生のお言葉はもちろん、高橋先生の言葉の一つ一つがとても力強く明日からの療育を頑張ろうと思えました。

【保護者 5 歳】

数の理解がこんなにも生きていくことに必要な力なのだと改めて痛感した。夏休みには買い物からチャレンジして料理を一緒にしてみたいと思った。ほぼ毎日やってくれている。米炊きのお手伝いもカップを使ってメモリまで水を入れる。練習も取り入れてみようと思う。

【保護者 小3】

楽しい買い物をするために買いに行くことができるお金がわかる、足し算引き算ができる単位がわかるなど、色々なことがわかることが大事なことがわかりました。家ではまだお菓子ジュースを買ってくれるものとなっているので、これはダメだと反省しました。

お小遣いを始めてお金に触れる機会を増やしていきます。

【保護者 小4】

買い物をするということは、算数の知識、手先の器用さ、自分の欲求を知る、など色々な力が必要な課題だと思いました。

それをひとつひとつ丁寧に教えていくことを今回の講義で学びました。

1000 並べは 10 までの数字が分かっていたら出来る課題とおっしゃっていて、確かにその通りだなと気が付きました。

幼児のうちから 1000 円、10000 円のお金の量を教えることが出来るのは凄いことだと思います。

また、買い物の実践なども具体的に教えてくださって、大きな学びでした。

【保護者 小5】

お金については、今まさに息子と取り組んでいるところなので、とても興味深かったです。1 円が 10 枚、5 円が 2 枚、5 円 1 枚と 1 円が 5 枚、10 円が 1 枚、全部 10 円であることが中々理解するのが難しいです。できていたと思っていても、実際に買い物に行くとできなかったり、ガックリしたりすることもあります。まだまだ熟練が足りないと実感しました。繰り返してやっていきたいと思いました。

お金の価値を知る、お金を管理することで、余暇を楽しめるようになるとお話を聞き、息子には無理だと思っていたこともひとつひとつ丁寧に積み重ねていけばできるようになるのだと前向きな気持ちになりました。息子は電車が好きなので、自分で運賃を計算して時刻表を見て旅ができることを目標にしたいと思います。

河島先生のメッセージをお伝えいただき、河島先生と高橋先生がたくさんの子供さん達と関わり、どういう工夫があるか、指導方法を常に改善していき、教材や指導方法を開拓していったことに感動しました。私たち親子は、それを橋本先生から教えて頂き、家庭療育ができていることはとてもありがたいことだと思いました。子供を責めるのではなく、こちらの指導が適切かどうか届ききっているか、届いていないならこちらが観察して見つけていくというお話で、息子になんでできないのと落胆していたことを反省しました。とても根気があることです。でも、私がやらないといけないと改めて思いました。高橋先生が子供達に愛情を持って指導されていることが伝わり、深く心に響きました。

【保護者 小6】

お支払いするときに 1 0 0 円から支払う、普段私たちが当たり前に行っていることが気づきにくく、 お店

の人から「え？」と思われてしまうような行動をとってしまう、自然と学んでいきにくいことが、こんなにも、学べて行けることの量の違いに出るのだなと改めて感じました。

学校生活、社会生活、その中で彼らが排除されることなく、生きていきやすいように愛を持って関わって
いけるようこれからも頑張っていきたいです。

小学6年生になり、少し反抗するようになってきましたが、まだまだ素直な部分をたくさん持つ息子なので親亡きあと、自立して生きていけるように私も安心して人生を全うできるように今頑張りたいです。

今回も丁寧な講義ありがとうございました。3日といわず、ずっと聞いていたいくらいです。

高橋先生のたくさんの経験談ももっとお聞きしたいです。

【保護者 18歳】

本当に嬉しく大変勉強になりました。これからの彼が自立をしていき人生を歩んでいくなかでどれほど「料理」が一人前に出来る様になる事、その為に今日の夕飯のレシピを親子で考え、スーパーと一緒に買い物に行き、〇gの肉、野菜、調味料等を目で見て購入する。セルフレジは難易度が高いので、一般のレジで売ってもらいなるべく、ちょうど近いお金を自動レジに入金できるよう、背後で見守りながら「買い物」の工程を導いていきたいと思いました。帰宅してから、レシピ通りに調味料大さじ□杯、水□ccなどきちんとレシピ通りに測って工程通りていねい作っていく事を念頭に、どんどん挑戦して、親子で楽しみながら取り組んでいこうと思いました。

高橋先生が開口一番にアドバイスを下さった「料理をしっかり取り組みなさい！」という意味を聴講して納得致しました。現在どんどんお店に「セルフレジ」が導入されてきています。私もたまに利用しますが、

難しいです。これから将来全てのレジが「セルフレジ」になっていくのでしょうか。考えただけでも、ぞっとします。現段階は「セルフレジ」は使わずなるべく店員さんがいらっしゃるレジで、小銭入れのチャックが開きやすい財布とお札のみしか入っていない財布を2つ持って先に小銭から入金することを教えて、その後にお札を入金する方法で取り組んでいます。ちょうど「夏休み」に入りました。絶好のチャンスです。高橋先生が教えて下さった「具だくさん豚汁」を何回も一緒に作ってみます。そして「料理」は面倒くさいものではなく、作る作業が「楽しい事」にも気づかせていきたいと思いました。ゆくゆくは3年間でコックさんになれる事を目標に親子で会話して楽しみながら教えていきたいと思いました。素晴らしい講義を聴講させていただき、本当に感謝しております。遠いところから足を運んでくださり、本当にありがとうございました。

【幼稚園教諭】

今回の講義を聞いて、幼稚園5歳児のジュース作りのことを思い返しました。ジュース作りに必要な物を考えたり、レシピを考えたり、いろいろ時間をかけて話し合いました。そして買い物に行くとなった時、お金（種類、量）がわからなかったのです。お金についても話はしましたが、十分に理解させてやる時間がありませんでした。もっと丁寧にお金のことで関わっていたらと反省します。体験しないとわからない。体験することが大切ということ、よくわかります。また、タイルや本物のお金を使うことで、視覚的にわかりやすく、理解しやすかったです。タイルって万能ですね。今後の保育にいかしていきたいです。

【特別支援学校 教員】

橋本先生のお話の中で、お金を使うことを教えると悪い方向に行かないか心配で手がつけられないという保護者の悩みがありました。学校でもお金だけでなく、色々なスキルを教えるのに悪いことも多くあります。スキルの習得の部分にしか注目していないためだということがよくわかりました。今更ですが、10 並べやタイルの使用がしっかりと繋がったものとして、私の中に落とし込むことができました。子供の捉えやすさと合わせて、その仕組みの理解にとっても効果的ということに納得できました。

【特別支援学校 教員】

高橋先生の「自立に向かっているのか?」、「置いて離す」「見えない線を想定する」「なぜ（言葉で伝えられず）怒っているのかを絶えず考える」「認知機能にアタックする」「左手でケースを持たせて無駄な動きをさせない」たくさん大切なことを教えていただきました。

【教員】

千円札で買い物をした際のタイルを使った演習では、千円から商品の値段を引いて、お釣りの金額を求める過程を目で見て確認できるため、とてもわかりやすいと感じました。硬貨を下から置く、置き方は、置いて放す、左手の使い方など、一つ一つ目的があり、取り組まれていることが分かり、大変勉強になりました。

【療育関係職員 未就学児から小学生】

金銭のやり取りには、社会性や人との関わりが含まれており、本物の買い物を通して実践的に学ぶことができます。しかし、自閉症児、者にとっては、金銭のやりとりやお金の価値、大小の理解が難しい場合があります。それでも、金銭の価値や買い物のルールを一つずつ丁寧に教え、買い物を楽しめるように導いてい

くことは、将来本人の余暇活動の充実にもつながります。あきらめずに繰り返し学習を積み重ね、自立に向けた学習をしていくことが大切です。高橋先生が講義の中で常に仰っている「実感をもって学ばせること」「タイルの表裏一体の関係を理解させること」を踏まえ、河島教材のタイルを活用しながら指導していくには、支援者の根気、忍耐、工夫が必須であると改めて感じました。また、支援者自身の振り返りの大切さについても学びました。常に自分の関わりが適切であるか？不適切であるか？を振り返りながら、愛をもってこれからも関わり続けたいと思います。

【事業所職員 児童発達支援・放課後等デイサービス】

今回の講座を通して、実体験の積み重ねがいかに重要であるかを改めて実感しました。特に幼児期においては、保育園等で自然に行われている子ども同士のやり取りや経験が、その後の土台として大きな意味を持っていることを感じました。また、買い物場面においては支援者のお店を選ぶところや段階的な指示の出し方を適切に理解し関わること、何に今つまづいているのかを観察し、理解し何を積み重ねるかを見抜ける目を持ちたいと思いました。また、1～10 10～100 100～1000 のタイルならべが分かりやすい、無駄のないものない非常に優れた教材であることを改めて感じ、驚く気持ちも出ました。

数の理解の土台としてシンプルで分かりやすく、基礎的な力をしっかりと育てることができる 100 ならべを継続的に取り組んでいきたいです。

【事業所職員 児童発達支援・放課後等デイサービス】

買い物をするという事は、品物を自分で探すことができるか、かごを持っていられるか、レジに並んで待つことができるか、支払いをすることができるか等、いろいろな手順とルールがあることを改めて感じました。また、外出には金銭のやり取りがある。やり取りをするためには、お金の価値や金種を理解していること、財布を扱えることが必要になってくるのだということを学びました。

お金とタイルを対応することで、お金の大きさを見て理解することができ、金種の違いを理解することに繋がっていくのだと思いました。また、500円2枚で1000円、100円が12枚で1200円等を理解する時にも計算上の数字で伝えるのではなく、1000の塊タイルを見ることで同じ大きさであることを実感することができ、金額を読み取る力になっていくのだと思いました。

千円札で買い物をするは、所持金から商品の値段をタイルで操作することで、お金を支払い、お釣りが返ってくるという金銭のやり取りの仕組みを実感することができるのだと思いました。これは実際に買い物をしたもので学習をすると、より実感を伴い、理解へと繋がっていくのだと思います。

私が関わっている利用者の方の中には金種を見て支払いをすることができても、財布からお金を出す時は財布をひっくり返して机の上に全てのお金を出して数えて出す方や実際の場面では自信がなく、レジの対応は兄弟に依頼するという方もおられました。学習ができていても、実生活では使えていないことがあるのだと感じた出来事でした。しかし、それは、自立して生きていく力には繋がっていないと思います。そのため、金銭指導と共に実際に買い物へ行くことを経験することが大切で必要なことだと思いました。

また、自立して生きていく力を育てるために、料理はとても大切な課題であること、全ての療育がつまった取り組みであること、そして、料理は目的を持って買い物をするができる手段であることを教えていただき、今後、料理をする機会、その材料を買う経験、買ったもののレシートを見て金銭のやり取りの仕組みを学習するということを通して、子どもたちが実感を持って理解できるような取り組みを考えていきたいと思いました。

河島先生のお言葉、とても心に響きました。

振り返り、考えているつもりでも、それは自分のおごりではないかということを感じるものでした。

届けているつもりであっても、つもりでは意味がないこと、届ききっていなければ届けていないという意味になるということ。それを常に心に留めて、支援の方向性を考えていく必要があるのだと強く感じました。

また、子どもたちを支援しているようで、私の方が学び、変えてもらっているのだと思います。そして、変わっていけると希望を感じさせてもらっているのも私の方だと思います。

子どもたちがわかるように、わかる喜びを感じられるように、支援を振り返り、知識を深め学んでいこうと思います。

【大学生】

視覚的に捉えることの分かりやすさに驚きました。タイルを用いた量概念の指導が、この金銭指導につながっており、視覚的に理解し、操作を伴いながら少しずつ概念を身に付けていくことの大切さを学びました。

お金の扱いは、将来社会で生活していく上で欠かせない力であり、誰かにだまされないためにも、買い物を楽しむためにも必要な力だと改めて感じました。また、これは今回の連続講座の中でおっしゃっていた「心豊かに生きる」ということにもつながる学びなのだと思います。

アルバイト先の放課後等デイサービスで買い物学習を行った際、持っているお金では買いたいお菓子を購入できず、何度口頭で説明しても理解できないことで、イライラして癇癢を起こしてしまった子どもがいました。今回の講義や教材に触れ、視覚的な教材を用い、実際に操作を伴いながら学習を進めることで、その子どもにも理解につながる可能性があると感じました。

2, 俣野先生の講義のご感想をお願いします

【保護者 4歳】

小学校、特別支援学校での事例をお話ししてくださり、イメージがしやすくとても分かりやすかったです。

今は一緒にお買い物に行っても、キャッシュレスで払うことが多く現金に目にする機会がほとんどありません。子供とお店屋さんごっこをしていると「PayPay で払います！」と言うぐらい、子供にとっても、キャッシュレス社会が身近になっていることを感じます。

数量指導の大切さも実感しました。土台をしっかり作るためにも、高橋先生が教えてくださった金銭指導を取り入れながら学んでいきたいです。

そして家庭でも実践を取り入れながら、社会性や自分で考える力を育んでいきたいです。

俣野先生のお話を聞いていると、わからないことができるようになって嬉しそうにする子どもたちの笑顔が思い浮かびます。また色々なお子様の事例のお話を聞いてみたいです。

【保護者 小2 小4】

「買い物をするというのはどういうことなのか」を改めて考えるようになりました。

買い物指導で、お釣りが出ないようにピッタリお金を出させるとか、財布を渡してそこからとってもらうとか、何円だったとしてもすべてのお金を渡してお釣りをもらうとか、それで買い物をしても、買い物したことにはならない。という先生のお話が印象に残りました。

先生が子供たちに買い物を通じて豊かな生き方を教えている様子に感動しました。

私も我が子に豊かな買い物ができるように育てていきたいです。

【保護者 小5】

息子を育てていて、言葉を正しく伝えること、端的に言うことの大切さを実感しています。俣野先生の話
を聞いて、私はつい余計なことを言ってしまう息子を混乱させてしまっていることがあるなと振り返ること
ができました。

計算はお金が理解できるように、時計は見通しを持って行動できるように、社会生活に結びつくように指
導されていることに感動しました。俣野先生は、常に子供達に寄り添い、指導されていて、子供達は学校生
活を安心して過ごせて、保護者の方は安心して任せることができていると思います。

【保育士】

俣野先生ご自身の実体験を面白く分かりやすくお話しいただき、本日も楽しく学ばせていただきました。
勉強は社会に出て必要な知識であり、日常生活に返す場面を作り体験させていくことで、子供たちの最後は
ハッピーエンドのお話ありがとうございます。

【保育士】

実際に演習に参加させていただき、1つ1つの動作や子どもの声出しなども意味があり、必要なことな
のだと自分の行動や動きをすることにより実感できました。買い物の実践、子供たちにも発信していきたい
と思います。ことができたのでよかったです。河島先生のお言葉、料理の仕方を聞くことができてよかった

です。口数を減らすよう頑張ります！

【事業所職員 放課後等デイサービス】

少人数の児童を連れて安心できる店に行くようにしています。暑い日は散策活動の途中、水分補給のために飲み物を買うようにしています。自分の欲しい飲み物 1 つレジに行き、支払うことが少しずつできている男児です。自分にも替えとアピールする姿もあったりします。これからも机上から日常で取り組んでいけたらと感じています。

【療育関係職員 3 歳～成人】

講義を受けた翌日、放課後等デイサービスで、修学旅行を控えた小学 6 年生のお母様とお話する機会がありました。学校からも「夏休み中に金銭を扱う経験をしておいってください」と言われているとのことでした。

財布について何うと、「100 円ショップで買う予定です。いつも首からぶら下げています」と話され、まさに前日の講義で教えていただいた内容が、そのまま目の前に現れたように感じました。

財布を首からぶら下げている子たちは思っている以上に多いのではないかと思います。出来事でした。

小学 6 年生という年齢を考えると、単にお金を落とさずに持ち歩けることだけでなく、年齢に応じた社会的な振る舞いを身につけていく視点も必要であること、外出時には自分専用のかばんを持つ、財布を適切に出し入れする、レジで順番を待つ、店員に必要なことを伝えるなど、買い物には金銭理解だけでなく、手指の操作性、身のこなし、社会的な振る舞い、コミュニケーションなど、本当に多くの力が含まれていること

を改めて確認できました。これらの力を保護者や子どもと改めて一緒に確認していく必要性を改めて感じました。

また講義の中で特に印象に残ったのは、子ども自身が「納得する」「納得できる」ことを大切にするというお話です。

先生の担任された子どもさんが「先生は納得することしか言わん」という実例から、私は子どもたちが納得できるような関わりができているだろうかとハッとさせられました。

私が独りよがりな教え込み、正しい行動をさせようとするだけでは、本当の意味で身につくことにはならない。子どもが実物に触れ、実際にやってみて、結果を確かめながら、「こうすればいいのか」と自分なりに納得できるようにするための高橋先生、俣野先生、橋本先生が示してくださった、こどもの理解や実態に基づいた工夫が重要であることを改めて自分自身に言い聞かせています。

また、河島先生の「言葉を正しく使わなければならない」というお話も自分自身の関わりを振り返らなければならないことだと感じています。河島先生の「借りてきた数字はどこに返すの？」と仰っておられた場面を思い出しました。私自身が言葉の意味を深く考え、そして子どもたちにわかりやすいように、長く曖昧に説明するのではなく、手短かに、端的に、その場面に最も適した言葉で伝える必要性、私が感情的にならず、子どもが理解できる言葉で落ち着いて伝えることが、納得につながるのだと痛感しています。

金銭理解の土台として、数量の力が非常に重要であることも再確認しました。お金は、日常生活の中で自然に分かるようになるとは限りません。数量の理解の部分でのわかりにくさを抱えている子どもたちはとても多いです。

俣野先生の「身についていないのであれば意図的に教えなければいけない」ということは「必要なことを

学ばせていく」ということであり、「可能性を決めない」「させることが社会に繋げること」になるのだと、実感しました。

先生の実際の小学校現場での実例は、とても具体的でイメージしやすく、そして、机上学習だけにとどまらない日常生活につながるものばかりでした。学びを生活につなげていくことを忘れずに私自身も取り組んでいきたいと思います。

子どもの可能性を大人が決めずに、「できること」や「これからできるようになること」を、保護者や支援者同士で確認しあいながら、日常生活に根差した学びを積み重ねていきたいと思います。

【大学生】

私は学校で金銭指導を受けた記憶があまりなく、気付けば自然とお金を使えるようになっていました。小学生の頃、親が買い物をする際に、おつりがきりの良い金額になるようにお金を出していることが不思議で、「これは算数でいつ習うのだろう」と思っていた記憶があります。その経験からも、子どもの立場からしても、学校で金銭について学ぶ機会はあまり多くないのではないかと思います。そのため、実生活と結び付けて考えることが難しく、お金の使い方が十分に分からないまま成長する子どもも一定数いるのではないかと思います。

そこまで高度な内容を学ぶ必要があるかは分かりませんが、数量の指導と関連付けながら金銭指導を行うことは大切だと感じました。お金に対する価値観は人それぞれであり、使い方に正解があるわけではありません。しかし、将来子どもが金銭面で困ることがないように、基本的なお金の扱い方や適切な使い方については身に付けておく必要があると思いました。

今回の講義を通して、金銭指導は単に計算ができるようになるための学習ではなく、将来の自立した生活を支えるための大切な学びであることを改めて実感しました。

3, 講座のテーマは「心豊かに」「希望をもって」生きること。三日間のご意見とご感想をお願いします

ます

【保護者 小4 小2】

今回初めての参加でした。長時間子供たちを家にお留守番をさせて自分のための時間（学び）を取ること
も許されず、我慢しないといけないと思っていましたが、子供たちにしっかりとママは勉強がしたいから、
お留守番をお願いしたいと伝えると、子供たちは3日間の講座を2人で協力しながら過ごしてくれました。

子供たちも頑張ってくれた分、様々な困難があっても投げ出さず、主導権はいつもこちらがしっかりと握
り、譲らず、ブレず、子供たちとしっかり向き合い、社会に出ても後ろ指を刺されることなく、まじめに
しっかりと仕事に取り組み、人と適度なコミュニケーションが取ることができるよう育てていきたいと思
います。

【保護者 小3】

先生方のお話を聞き、買い物と料理は生活の基本という教えが今やっと実感できるところまで子供が成長
したのだと、しみじみ感心しています。話を聞きながら話を聞きながら、早く子供に会いたい気持ちでいっ
ぱいになりました。子供が心豊かに、そして快適に生活できるようになるために一番近くにいる私自身が正
しく関わり、日々の生活を暖かく支えてあげたい。私自身が正しく関わり、日々の生活を暖かく支えてあげ

たいと気持ちを新たにしています。

【保護者 小3】

子どもが未就学児の時はありとあらゆることが不安で、希望は持っていたかもしれませんが、心豊かにと
いう部分は何とも言えず、子育てに焦りを感じていたように思います

トモニ療育センターの教材に出会い、親子で成長していく中で息子にできることも増えもでき、心がどん
どん豊かになってきているように思います。これからも育児と教育を通して、お互いの心を育てていきたい
と思います。

【保護者 小6】

毎年、会を重ねるごとに深さが出て研修後は毎回満たされたあったかい気持ちになります。
と同時に自分の日々のできていないことばかりを数えてしまう罪悪感もあり、わたし側の課題が大きいなど
いつも感じています。

障がいがあっても胸を張って生きてもいいんだということも教えていただき、診断がつくつかないかの
幼い息子をとずっと暗い気持ちで過ごしていた数年前の自分に「大丈夫」と伝えたいです。定型発達児に比
べてたくさんの工夫や配慮がいる子たちですが、母が育ち工夫して渡せるとできたが増え、目がキラキラす
るのが伝わってきます。目がくすみ、曇っている間は母側の課題だな、といつも反省の毎日です。街で見か
ける仲間たちのことを心の中で「お仲間かな？一緒に頑張ろう！」と思えるようになったのは息子のおかげ
です。

これからも希望をもって一緒に育っていきたいです。

今悩んでいるお母さんたちにも「障がいはなくならないけど、大丈夫」ということをたくさん知ってもらいたいです。ありがとうございました。

【幼稚園教諭】

3回の講座、ありがとうございました。保護者の方、事業所の方、学校関係の方など、様々な方と関わってお話できたこと、本当に良かったです。保護者の方はもちろん、立場は違えど子どもを理解し、支えようと取り組んでいるお話を聞き、同じ気持ちで関わっておられることが、うれしかったです。「幼児期に大切なこと」で人の役に立つこと、人と物を交換すること、人の立場を経験することは、幼稚園生活の中で十分経験でき、学べることです。特別何かをしなければと焦るのではなく、今の幼稚園生活を丁寧に過ごしていけるよう、努めたいと思います。

【事業所職員】

河島先生のわかる喜びできた喜び意識を共有という言葉を大切に、子供を観察し、支援者として1人1人の療育を考えて工夫していきたいと思いました。また、ポストイットを使っの計算や料理の話で必要なことしか言わないことを心がけていきたいと思いました。

【事業所職員】

障害があってもなくても、現状の日本で生きていくには現金を理解することは必要不可欠なことだと思うので、支援が必要な子はもちろん有効だと思いました。私が勤めている事業所の児童たちにも卒業するまで

に最低限自分が欲しいものは自分でお金を出して支払いができる状態になってほしいし、してあげたいなと思いました。

【事業所職員】

改めてタイルの素晴らしさを実感しました。また、効率的な手指の動きに意識を置くなど、本当に生きやすい動作に基づいての支払い、また量の理解や自分で判断する。力考える力をつけていくことの重要性を痛感しています。買い物は様々な力が必要であること、数字の理解の状態がどのようにあったとしてもやっていくことはやはり必要だと思いました。お金を使った課題学習をしっかりと取り組んでいきたいです。

【事業所職員 就学後～18歳】

支援者として利用者や他の支援者を信じ、繋がり、関わることをベースにしながら支援指導を行うことが、心豊かに、希望をもって進んで行く上で必要なことだと感じさせられました。特に私自身においては、日々の支援の中で、まずは心のゆとりをもち、一人ひとりの子どもと向き合ったり、自らチャレンジする勇気を持ったりすることが必要だと考えています。

そう思いながらも、「取り組むことが違っていたら…」、「間違っことをインプットしてしまったら…」
「今まで積み上げてきたものを崩してしまったらどうしよう…」と考えてしまい、一歩踏み出して取り組むことへ不安から、消極的になってしまいがちなところがあります。子どもを信じ、支援者同士を信じ合うことで、一回きりではない、その後どうするのか、どのようにつなげていくのかを考え、豊かにすることができ、自身もチャレンジできていけるのだと実感する日々です。これからも、支援者自身の姿勢として、心豊

かに 希望をもって進んでいくことを心の中心に置いて日々取り組んでいきたいと気持ちを新たにすることができました。

【事業所職員】

私たち支援者は介護ではなく、あくまで支援を行うので、児童が今はできなくても今後できるようにするというのが、この仕事の大きな目標だと思います。を買ったり、自分の行きたいところに行ったりすることなどをしていくことで、心豊かに希望を持って生きていけるのかなと思います。その子たちの土台を作っていけるように支援していこうと思いました。

【療育関係職員 3歳～成人】

今回の講義と演習を通して、買い物、金銭指導では、お金の種類や計算方法を教えることはもちろん、生活の中で、自分で考え、判断し、人と関わりながら暮らしていく力を育てていくことでもあると改めて感じました。そして橋本先生からの弟さんの実体験をお聞かせいただき、30代からで、成人になっても学び直しが可能であるのだと希望が持つことができました。

私が関わっている方の中にも高校卒業後でも徐々に数量理解を身につけ、不安だった買い物が徐々に楽しめるようになっていく方がいらっしゃいます。

高橋先生がお話しされていた「財布を渡して、出してもらったらいいい」状況に近く、困ったときは店員さんに援助を求めることはできていました。しかし、本人に話をよく聞くと「買い物は不安。本当にお金が足りるのか心配」と感じていることがわかりました。

今回の講座を通して改めて、自分で判断ができないことで、不安を感じ、買い物を楽しむことができていなかったのだとわかりました。高校卒業後も数量課題を学び続け、今年度になって「算数が好きになってきた」という言葉が聞かれました。

高校3年生の時に100並べや数量タイル、足し算九九挑戦する際にはとても嫌そうな顔をし、自分のやり方以外は受け入れにくい部分があり、私と張り合うことも多かったのですが、必要なことと保護者の方とも話をしながら進めてきました。

高橋先生がお話しされていたのは「トモニは抵抗力をつけるために嫌なことをさせるのではない！！必要なことを学ばせるということ。届け切ることで、喜びが生まれる。」ということでした。

彼女は抵抗力がついたのではなく、学んだことで、買い物に対する不安感が減り、「算数が好きになってきた」という喜びを持つことができました。

改めて、学ぶということとはこういうことなのだ、と感ずることができました。

お金の学習になるとほとんどのお子さんが嬉しそうな表情をします。一方で小学生になっても、あまりお金に興味を示さない方もおられ、幼児期からのご家族との経験の少なさを感じます。

橋本先生から教えていただいた幼児期に大切なこと、直接金銭に触れることはなくても、いずれつながっていくということ、「何のために行なっているか」ということを今回も痛感しています。

昨日も児童発達支援での保育現場でも話題になったのですが、保護者の方が生活動作の部分を自然とやってしまいがちで、保護者の方にも「何のために経験するのか」ということ、そして保護者の方にもわかりやすい言葉で伝えていかないと、届いていない現状があり、より丁寧に取り組んでいこうと話がなされていました。

金銭指導の土台は、幼児期からの日常生活の中にあることも学びました。家族の買い物を見ること、購入した物を一緒に運び、冷蔵庫に入れること、家事や当番を通して人の役に立つこと、物を交換すること、お店の人とお客さんなど役割を交替して相手の立場を経験することなど、日々の暮らしそのものが金銭学習につながっていることをしっかりと届けていかなければならないと感じています。

タイルに 100 円を置いていく際に「見えない線を想定することができると社会性が安定する」というお話も高橋先生から伺いました。

また、買い物体験として、『お小遣いで好きなものを買うのではなく、日常のお金の感覚を身につけることが大切。日常の金銭感覚を学ばせる、実感させる』と仰られた高橋先生の言葉がとても強く残っています。

家庭でこどもがお金を使う際には、「好きなおやつ」、「欲しいおもちゃ」であることが多いように思います。実際に私自身が保護者の方に「日常のお金の感覚を身につけることが大切」ということを、これまで十分に伝えられていませんでした。好きな物を購入する場面では、持っているお金で足りるかどうかを考えるはずが、結局は大人が不足分を出すなどして、曖昧になってしまう例も聞きます。

「日常のお金の感覚」何より大切なことだとハッとさせられました。

俣野先生の講義にもあったように、お金の使うところが多く、私が子供時代の時とは環境が大きく様変わりしています。だからこそこの「日常のお金の感覚」を実感できるかどうか、余暇で使用するお小遣いにもつながってくるのだと改めて学ぶことができました。

水や電気にもお金を払っているという話をすると驚いている子どももいます。

「日常のお金の感覚」が後の「働く」ことや「余暇活動」につながっていくのだと痛感しています。

また次のお話も強く印象に残りました。

『算数の力が生活の中で最も発揮される活動の一つが料理。』

生きる力をつけられるのは料理。母子が仲良くなる課題。

レシピ通りに作るとおいしい。

そして料理は神聖な家事であり、誰もがが必要なこと。

家族のために生きるために値段はつけられない！

家族の気持ちが和む。幸せ！先を見越して・・・アルバイトには入れない」

「料理は神聖な家事であること」そう念頭に置いておくことで、家事への向き合い方も変わってくるのではないかと思います。家族のために、生きるために、命を守るために行うこと。私自身も改めて向き合い、そして、保護者の方とも確認し考えていきたいと思います。

今回のテーマは金銭管理ということでしたが、金銭だけではなく、大切なことをたくさん学ばせていただきました。まだまだ自分自身深めきれてない部分、表面的にしか捉えられていなかった部分が浮き彫りになりました。今回の学びもしっかりと実践に移しながら子どもたち、保護者の方と共に考え進んでいきたいと思っています。

4, 来年度に向けて 学びたいこと、語り合いたいことなど お知らせ下さい

【事業所職員 児発・放デイ】

グループワークでは、どの立場の方もいる組み合わせで様々な立場の方の意見がいけるのはとてもよいことですが、同じ立場の方ばかりの組み合わせのタイミングもあってもよいのかとも思いました。保護者や職員の中でも経験がどれくらいあるのか無いのかそういった分け方もまた話しやすいのかとも思いました。

【教員】

重度の知的障害の子供に対する取り組みについて知りたいです。

【保護者】

息子は、青年期に入りました。その時期その時期に必ず悩みや苦悩などがありました。息子はその時期毎に、関わり方なども含め、悩んでいました。「みえる」の研修会に来られている親御さんたちも、恐らく同じように思っておられると思います。例えば、の話ですが、幼児期(就学前)のお子さんをお持ちの親御さんの話から、リレー式で最後に成人期のお話をインタビューのような形で生のお話が聞ける機会があれば、後進の親御さんや、児童デイの先生、教員の先生方達に、私たちの声が届くように思えました。

アンケート御礼

皆さま、アンケートありがとうございました。一部を掲載させていただいております。

とてもお心のこもった内容にありがたく、思いました。

家庭で、園・学校で、事業所で、本講座が役に立って、子ども達やご家族のためになればと思います。

主催者として希望をもてるような講座にしたいと考えていました。

ご参加された皆さんの声を聴き、実施して良かったと思いました。

また来年度にお会いできればと思います。

ありがとうございました！

発達応援室 橋本美恵